

災害時における ELSI

宮城県医師会常任理事

石 井 正

はじめに

日本は地震，台風，津波などの自然災害が頻発する災害大国である。さらに近年では福島原発事故や COVID-19 など，これまで予想しえなかった「クライシス」も発生し，超高齢化社会を迎えつつある中，これらの対応においてもさまざまな課題が表出してきた。それに伴い，医療従事者が通常の医療倫理や法律ではカバーしきれない判断を求められる場面が多くなってきており，災害時に迅速かつ適切な対応ができるような仕組みを整備することが求められている。そのような状況を鑑み，日本災害医学会では2024年に「災害時のELSI検討委員会」を設置した。筆者も委員を務めている。

ELSIとは，「倫理的（Ethical），法的（Legal），社会的（Social）課題（Issues）」の略称であり，主に医療や科学技術の発展に伴って生じる倫理・法律・社会に関する問題を指す概念である。もともとはヒトゲノム研究の進展に伴い，人間の遺伝情報の取り扱いや倫理的課題を検討するために提唱されたが，現在では医療全般や災害時の医療提供においても重要な枠組みとなっている。

災害現場では，まさに倫理的，法的，社会的課題が顕在化してきている。特に高齢化社会における災害医療のあり方については現代の日本において極めて重要なテーマである。具体的には，第一に，倫理的課題として災害時のトリアージの決定，高齢者や重症患者への医療のあり方，医療資源の配分における公平性と倫理的ジレンマ，第二に，法的課題として医療従事者の責任問題（災害時の医療ミスや対応の限界），災害時の医療行為に関する法的制約（特例措置の適用範囲），医療機関の避難や閉鎖に関する法的問題，第三に，社会的課題として医療者や被災者に対する風評被害（特に感染症や放射線被ばく時），被災者の医療アクセス格差，医療崩壊を防ぐための社会的支援のありかた，などがあげられる。

「ELSI検討委員会」では当面の検討課題として，まずは大きく分けて以下の3点について取り組む方針となった。

1. 高齢化社会の中での災害医療のありかた
2. 福島原発事故等のCBRNE（化学・生物・放射線・核・爆発物）災害，COVID-19等の感染災害対応時における医療従事者を含む社会全体の過度の恐怖や萎縮，混乱により生じた患者・被災者への行動制限，医療機関の風評被害，患者／被災者だけでなく当該医療従事者に対する偏見・差別，等を軽減するための方略＝医療モラルのありかた

3. 災害時において限られたリソース（マンパワー、物的資源など）の配分に関する倫理的判断のありかた、すなわち救命や健康管理における最大幸福をどのようにして得るべきなのか
本稿では、これらの問題について考察し、災害時における医療倫理のあり方について議論する。



1. 高齢化社会と災害医療の課題

日本の高齢化は世界的にも類を見ない速度で進んでおり、災害時においても高齢者が被災する割合は高い。特に、高齢者の終末期医療と災害医療が交錯する場面では、適切な医療提供のありかたが問われる。例えば、COVID-19対応において医療崩壊を防ぐため、高齢者の治療優先順位が下げられる場面があったことなどがあげられる。これは限られた医療資源を最大限に活用するための合理的な判断とも言えなくはないが、一方で「高齢者だから」という理由だけで医療が制限されることが許されるのかという問題がある。医療倫理の観点からは、「最大多数の幸福」と「個人の尊厳」のバランスをどのように取るかが重要な課題となる。

2. CBRNE災害や新興感染症パンデミックにおける医療モラルのあり方

福島原発事故やCOVID-19パンデミックにおいては、医療従事者を含む社会全体が過度の恐怖や萎縮、混乱に陥りやすい。例えば原発事故直後には当該地域からの避難者や患者が他地域で受け入れを拒否され、またCOVID-19パンデミックでは、医療従事者やその家族が偏見の対象となり、子どもまで保育園や学校で差別を受けるケースや、一部の医療機関においてCOVID-19患者の診療を敬遠する事例もあった。また患者・被災者に対して必要以上に厳しい行動制限を課すこともあった。これらのことは人権侵害につながりかねないし、ましてや偏見や差別はあってはならない。

災害時には、エビデンスに基づいた情報発信と適切なリスク評価が不可欠で、医療提供側や健康管理側はリスクを適切に理解し、過度な恐怖に基づいた行動を避けることが求められる。

3. 限られたリソースの中での最大幸福の追求

災害時には医療リソース（マンパワー、医薬品、医療機器など）が不足することが避けられない。その中で、どのように医療を配分するかは極めて難しい問題である。こうした状況では、1.でも触れたが目の前の1人の患者を救うことに注力するのか、それとも全体としてより多くの人を救うことを優先するのかという倫理的ジレンマが生じる。この問題に対処するためには、事前に社会的な合意を形成し、医療者が迷わずに判断できるようなガイドラインの整備が必要と思われる。特に、トリアージの基準や倫理的枠組みを明確にし、医療者が公正な判断を下せるようにすることが求められる。

おわりに

災害医療における倫理・法・社会的課題（ELSI）について述べた。これらの課題に適切に対応するためには、医療者だけでなく、社会全体で倫理的議論を深め、適切な制度設計を行うことが不可欠である。そのためには科学的根拠に基づいた適切なリスク管理の確立とともに、医療者が冷静な対応、倫理的な判断、社会的な偏見の是正に努めることができるような環境整備が必要である。本稿を通じて、災害医療におけるELSIの重要性を再認識し、今後の課題解決に向けた議論の一助となれば幸いである。